愛知県福祉サービス第三者評価事業 評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 中部評価センター

②施設・事業所情報

名称：アスク共和東保育園	種別：保育所	
代表者氏名： 清水 なおみ	定員（利用人数）： 205名（196名）	
所在地： 愛知県大府市梶田町五丁目111		
TEL： 0562-46-2079		
ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/kyowahigashi/		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日： 平成22年 4月 1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 株式会社 日本保育サービス		
職員数	常勤職員： 27名	非常勤職員： 17名
専門職員	（園長） 1名	（栄養士） 3名
	（園長補佐） 2名	（給食調理員） 5名
	（保育士） 30名	（事務） 2名
	（看護師） 1名	
施設・設備の概要	（居室数） 10室	（設備等） 園庭、遊戯室、水遊び場
		図書コーナー、シャワー

③理念・基本方針

- ★理念
子育て支援を通じて笑顔溢れる社会づくりに貢献します
- ・ 法人
安全&安心を第一に保育・育成を実施します
いつまでも思い出に残る施設となるように日々の保育を大切にします
職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします
地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します
常に時代が求める子育て支援を実践し続けます
 - ・ 施設・事業所
未来（あす）を生きる力を培う

★基本方針

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための、‘生涯にわたる生きる力の基礎’を育みます。

- ・自ら伸びようとする力を支えます
- ・五感を養って感性を豊かにします
- ・後伸びする力を育みます

④施設・事業所の特徴的な取組

当園が目指すのは、園内にとどまらない「地域の中の保育園」で、地域の活動に力を入れていきます。今まで様々な取り組みを行ってきました。コロナ禍ではイベントの縮小や中止などの経験もしました。そんな中でも地域の方と協力し合い、現在では、地域の会議や認知症高齢者等行方不明者捜索模擬訓練にも参加して以前よりも多くの交流が持っているといます。また、地域の公立保育園とのドッジボール交流や学区の小学校訪問等の交流も行い、こどもたちが地域の方々とふれあう機会を積極的に設けています。

保育面では、昨年度より新たに「STEAMS保育」を取り入れました。こどもたちの主体性を伸ばし、様々な経験を積むことで生きる力を育み、視野が広がり、個の成長へと繋がっていくと考えて取り組んでいます。併せて「もじかずランド」も取り入れて楽しみながら学べる取り組みも行っています。また、愛知エリアの勉強会では、「他園研修」として職員がアシスト形式で他園に行き、その園の「いいところ探し」や環境について等を実際に見て、聞いて、学びに繋がっています。

祝日保育・一時保育・園開放・他園の土曜預かり等も引き続き行い、必要とされる地域の保育園を目指していきたいと思います。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 6年 6月 1日(契約日) ~ 令和 7年 5月14日(評価確定日) 【令和 7年 1月29日(訪問調査日)】
受審回数 (前回の受審時期)	11回 (令和 元年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆保育の質の向上への取組み

園長は、「保育の質の向上」には「専門性」を高めることが重要と認識し、法人や市主催の教育・研修への積極的な参加を推奨している。チェックリストを用いた自己評価による保育の振り返りの機会を設け、日々の保育や個人面談等を通して職員一人ひとりの「専門性」のスキル向上を図っている。さらに、「STEAMS保育」の導入により、職員が自ら考え、職員間の協力も得ながら自己肯定感を高めることで「保育の質の向上」に繋がっている。

◆地域との関係

「地域に中の保育園」を目指し、地域住民をはじめ障害者施設や学校、近隣他園との交流等、交流範囲を広げている。地域の会議に参加し、認知症高齢者等行方不明者捜索模擬訓練などにも参加して、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

◆働く保護者に寄り添った保育

広い保育室や園庭で、のびのびと遊べる環境が整い、給食やおやつも手作りで、子どもが楽しみにできる食事を提供している。給食はアレルギー食のみならず、宗教食にも対応している。長時間保育、祝日保育、一時保育、子育て支援等、様々な事業を幅広く行っている。因みに、長時間保育は7時から20時までの時間帯をカバーしている。園の荷物も極力少なくし、働く保護者が安心して預けることができる園である。

◇改善を求められる点

◆経営課題の把握と事業計画の策定

園長は園運営に関する課題を認識し、都度、職員とも共有して適切な対応に努めている。しかし、認識した課題は文書化されていない。課題は文書（一覧表）化することで、優先順位や対応時期・期間なども明確することができる。それに基づいて事業計画として活動内容を明確にして、中・長期や単年度の事業計画に反映させて活動していくことが望まれる。

◆職員のワーク・ライフ・バランスの構築

指導計画や記録等の種類が多く、丁寧に作成され、反省も記録されている。確認もサインで誰が見たか分かる仕組みもできている。それらの取組みが丁寧に行われている反面、業務が多く、正規職員の時間外勤務も当たり前になっている。記録の簡素化や、ICT化などの工夫で、時間外勤務の少ない働きやすい職場作りを目指し、職員のワーク・ライフ・バランスが取れるような環境づくりを期待する。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園の課題は文書（一覧表）化することで明確になり、優先順位の把握や対応がしやすくなる等のアドバイスを頂きました。
職員間で共有し、より良い保育園運営に努めていきたいと思えます。
ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果

※すべての評価細目（65項目）について、判断基準（a・b・cの三段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する

【共通評価基準】

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果	
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			
I-1-(1)-①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	保1	Ⓐ・b・c
<コメント> 法人の理念・基本方針に基づき、職員とも話し合って園目標を設定している。園長は、名古屋市立保育園の園長から異動して3年目となる。前園長からの園目標を引き次ぎ、日々の保育に取り組んでいる。理念・方針に沿って、「地域の中の保育園」を目指して地域活動に力を入れるとともに、昨年度より本格導入された”STEAMS保育”により、子どもの主体性を伸ばす保育を実践している。			

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果	
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
I-2-(1)-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	保2	Ⓐ・b・c
<コメント> 市の公立園・民間園の園長会に参加し、保育行政に関する情報を取得している。さらに、他園の園長との意見交換から、地域の保育環境の変化などの情報を収集している。その情報を、法人の園長会やエリア担当を通して法人本部へ提供し、法人や園の運営に反映させている。今年度は初めて「期間限定のスポット入所」を受け入れるなど、園運営・地域の子育て支援共にメリットのある活動を展開している。			
I-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	保3	a・Ⓑ・c
<コメント> 早朝・延長時間帯での職員不足や、定員が200名以上の大規模園であり職員数も多く、職員間の情報伝達や共有も課題となっている。外国にルーツを持つ子どもや発達気になる子どもなど、配慮を必要とする子どもへの対応も課題に挙げ、職員と共有して取り組んでいる。認識している課題は、優先順位等を明確にするためにも、一覧形式（リスト化）で取りまとめることが望まれる。			

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果	
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	保4	a・Ⓑ・c
<コメント> 法人様式で職員育成や子育て支援、保護者支援、地域交流などのカテゴリーに分けて5年毎の中・長期計画が策定されている。しかし、その中に園長の考える「園のあるべき姿（目指す先）」が示されていない。現在、「地域の中の保育園」を目指して活動しているが、中・長期的な目指す先も明確にし、既存の中・長期計画に活動内容を盛り込んで見直すことが望ましい。			
I-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	保5	a・Ⓑ・c
<コメント> 法人様式で単年度事業計画を策定しているが、園独自の改善活動や活動を評価するための基準（数値目標や達成度合い）が明確にされていない。具体的な取組み・活動を明確にするためにも、担当者や実施時期、実施する活動のほか、活動評価を想定した評価基準（達成度合いや数値目標）を明確にされたい。評価基準を予め設定しておくことで、活動や取組みの方向性が定まってくる。			

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	保6	a ・ ⑥ ・ c
<p><コメント></p> <p>事業計画を年度初めに職員に周知し、クラスミーティングや乳児・幼児ミーティング、職員会議などを利用して保育計画や行事計画等を作成している。定期的に、実施状況の進捗確認や実施内容の評価・見直しを行い、次回実施時の改善に繋げている。事業計画の各活動は経営・管理層だけの活動ではなく、活動主体は職員となるため、事業計画の作成・評価に際しては、より多くの職員の参加を期待したい。</p>		
I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	保7	a ・ ⑥ ・ c
<p><コメント></p> <p>事業計画の概要は、入園希望者には園見学の際に「入園のしおり」を配付して説明している。さらに、入園説明会でも説明している。在園児の保護者には、ブログや「園だより」などを利用して周知し、普段の園内での子どもの様子や活動を撮影して提供している。外国にルーツを持つ保護者も含め、保護者の関心を高めるための取組みの検討が望まれる。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	保8	① ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>園長は「保育の質の向上」には専門性を高めることが重要と認識し、法人や市主催の研修への積極的な参加を呼び掛けている。チェックリストを用いた保育の振り返りの機会を設け、日々の保育や個人面談等を通して職員一人ひとりのスキル向上を図っている。”STEAMS保育”の導入により、職員も自ら考え、職員間の協力を得ながら自己肯定感を高めることで「保育の質の向上」に繋げている。</p>		
I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	保9	a ・ ⑥ ・ c
<p><コメント></p> <p>今回の第三者評価受審における自己評価によって気づきや課題が見出され、既に改善に取り組んでいる。「保育所保育指針に基づく自己チェックリスト」や「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用い、定期的に自己評価を行っているが、結果の評価・分析までには至っていない。第三者評価結果も含め、結果を集計・分析して課題を抽出し、事業計画に反映させて計画的に改善していくことが望まれる。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果	
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	保10	a	ⓑ・c
<コメント> 園長をはじめ主任（園長補佐）・職員など、園内での役割や責任は、「職務分担表」や「組織図」により文書化され、年度初めの職員会議で周知している。園長不在時の権限委任は「暗黙のルール」となっているが、園長不在で避難訓練や防犯訓練を実施し、園長不在でも支障がないよう取り組んでいる。園長不在時の権限委任を「暗黙のルール」とせず、「職務分担表」に明記することが望まれる。			
Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	保11	a	ⓑ・c
<コメント> 法人内にコンプライアンス委員会が設置され、法令順守が図られている。法令や指針の改正時には、市や法人からの通知を受け、必要に応じて職員に周知している。マニュアルや手順書は、市や法人で作成したものを必要に応じて加筆・修正して使用している。法令・指針の改訂は、マニュアルや手順書の見直し機会ともなるため、関連する法令・指針を特定し、改訂状況を確認する仕組みの構築が望まれる。			
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	保12	ⓐ	・b・c
<コメント> 職員一人ひとりが、毎年「目標管理シート」により年度目標を設定し、研修計画に沿った教育・研修の受講を含め、四半期ごとに面談を行って進捗状況や活動評価を行っている。保育実践に関しては、公開保育への参加やセルフチェックなどによる保育の振り返りを行い、新たな気づきを得て、「保育の質の向上」を図っている。園長の高い改善意識が感じられる。			
Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	保13	ⓐ	・b・c
<コメント> 登降園管理や各種情報発信はシステム化され、保護者の煩雑さの解消や職員の負担軽減が図られている。職員間のコミュニケーションを良好に保ち、主任保育士がフリー保育士や時短保育士の協力を得て空き時間を可視化し、適時にシフト調整することで、職員の空き時間を有効利用している。記録様式については、市と法人の様式を併用しており、重複を避けるために様式の見直しを行っている。			

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果	
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	保14	ⓐ	・b・c
<コメント> 毎年10月に次年度の職員の就業意向の確認を行い、必要に応じて法人本部で人材確保を行っている。園長も養成校の訪問や就職フェアに参加、園内でも調理員など募集ポスターも掲示して必要な人材確保に努めるとともに、園内では親睦会の開催や職員間とのコミュニケーションを密にして職員の不安や悩みを早期に対応し、「明るく楽しく」保育できる職場環境とすることで離職防止に繋げている。			
Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	保15	ⓐ	・b・c
<コメント> 「保育人材育成ビジョン」が策定され、「職務要件定義」により各階層における「期待する職員像」が明記されている。職員一人ひとりが、「保育人材育成ビジョン」に沿って個人研修計画を作成している。人事管理システムが導入され、取得した資格や受講した教育・訓練なども一括管理されている。人員配置は、本人の意向にも配慮し、日頃の保育や本人の育成も考慮して園長・主任で決めている。			

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	保16	a ・ ㉔ ・ c
<p><コメント></p> <p>職員の勤怠管理はシステム化されており、園長は職員の有給休暇の取得や時間外労働などを把握している。時短職員やフリー保育士などの協力を得て勤務シフトを調整し、職員の業務負担の平準化を図っている。定期的に個人面談を行っており、園長・主任は常に職員に目を配り、職員の心と身体 の健康維持に取り組んでいる。課題は、職員の時間外労働が常態化している点である。</p>		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	保17	㉔ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>毎年、「保育人材育成ビジョン」を基に「目標管理シート」により年間目標を設定し、四半期ごとに個人面談を実施して活動評価している。設定する目標は、園目標に沿った個人の活動目標と、職員個々の思いや現状の問題点・課題改善を挙げている。職員一人ひとりの将来的な育成に向けての目標が設定され、クラス単位でも話し合いの機会が設けられている。</p>		
II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	保18	㉔ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>市の全体研修のほか、法人内でも「保育人材育成ビジョン」に基づいて個人別に年間研修計画が作成されている。研修内容は、階層別や専門性の高い知識・技術の習得、マネジメントなど、多彩なカリキュラムが用意されている。研修受講後の報告書にはアクションプランも記述しており、習得した知識・技術を基にした園内での活動も評価し、研修効果の確認も行われている。</p>		
II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	保19	㉔ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>法人研修の多くは、オンラインや動画配信により実施されている。市主催の研修は集合・対面で開催されるが、職員間の協力を得てシフトを調整し、研修参加の機会を確保している。外部からの研修案内は、回覧等により職員に周知し、市主催の研修は、非常勤職員にも積極的な参加を促している。新任職員はチューター制度が取り入れられており、悩みや困りごとにも早期に対応できる体制が整えられている。</p>		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	保20	a ・ ㉔ ・ c
<p><コメント></p> <p>「実習受入マニュアル」が策定され、「実習生受入れガイドライン」に沿って、保育実習生の受入れを行っている。受入れに際しては、事前に担当職員に口頭で注意事項や実習カリキュラムの確認など行っている。「実習受入マニュアル」に、園内で事前に行う事柄なども追記し、事前準備に漏れがないよう見直しすることが望まれる。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	保21	a ・ ㉔ ・ c
<p><コメント></p> <p>ホームページや「入園のしおり」を利用し、保育方針や保育内容などを公開している。未就園児の保護者が対象の「マイ保育園制度」で行事などの情報を提供し、参加を促している。苦情・相談は、園長が解決責任者となり、第三者委員の選任なども周知している。数件の苦情が発生し、適切な対応が行われているが、苦情対応の公開に際して「申立人の意思（同意）」を確認するなど、手順の見直しが望まれる。</p>		
II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	保22	㉔ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>法人の規程に基づいた事務、取引に努めている。一時保育料などの現金収納もあるが、事務専任職員を配置して出納処理を行い、園長と相互に確認する取扱いとなっている。隔月に法人本部から財務や園運営に際しての記録類、衛生管理状態などの内部監査や定期的なエリア長の巡回を受けている。また、県の監査を毎年受け、指摘事項はなく適正な園運営がなされている。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果	
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	保23	a · b · c	
<p><コメント></p> <p>お祭り、クリスマスのサンタクロース、節分の鬼など、園内行事に地域住民が協力している。園外の沿道の花壇整備には、園の子どもも参加している。併設されている子育て支援室とも連携し、未就園児親子との交流や地域の生活介護事業所（障害者施設）との人的交流も継続されている。今年度は近隣園との交流も始めるなど、「地域の中の園」の実現に向けての活動に取り組んでいる。</p>			
II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	保24	a · b · c	
<p><コメント></p> <p>地域事業者より寄贈された大型水槽と川魚を、事業者が世話に訪問しており、川魚の生態を大学講師が教えに来るなど、ボランティアの受入れに繋がっている。医療専門学校生徒による口腔ケアやバイオリン演奏など、保育補助だけでなく、子どもの健康や感性を豊かにするボランティアを有効に活用している。今年度は、職場体験の受入れがなかったため、次年度以降は学校側へアピールしていく予定である。</p>			
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			
II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	保25	a · b · c	
<p><コメント></p> <p>園として必要な関連機関を一覧表化するとともに、発達支援センターや保健センター、児童相談所など、必要に応じて連携し、適切な対応が取れる体制を整えている。園に子育て支援室も併設され、未就園児・保護者に対して連携した対応が取られている。子どもの人権を守り、子どもが健やかに過ごせるよう「子ども第一」に、虐待やネグレクトなどの兆候を見逃さないよう取り組んでいる。</p>			
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	保26	a · b · c	
<p><コメント></p> <p>園長会のほか、幼保児小中連絡会議、生涯学習会議、子育て支援会議、横根山地区福祉ネットワーク会議など、地域で開催される会議に参加している。そこで情報交換・収集するとともに、子育て支援室との連携や園開放、訪問支援、マイ保育園事業などを通して、子育てに関する悩みや相談などから園に対する期待や要望などを把握し、園運営に反映させている。</p>			
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	保27	a · b · c	
<p><コメント></p> <p>一時保育や祝日保育など、地域の子育て支援に取り組んでいる。併設の子育て支援室との連携や、児童センター、保健センターなど関連機関と情報共有して保護者支援に努めている。系列会社が行うリユース活動、設置しているAEDの地域貸与可能など、地域社会に貢献している。策定したBCP（事業継続計画）は、園の資源（人的・物的）の有効活用も考慮して見直し、訓練を実施することが望まれる。</p>			

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	保28	㉖ ・ b ・ c
<コメント> 法人の愛知エリア主任研修が行われ、人権について学ぶ機会がある。そこでの学びを園内研修で共有し、系列園の保育見学を行って、子どもとの関わりや声掛け等を学ぶ機会を作った。「良いところを探す」というテーマがあるため、良い面を見て、自己の保育を振り返る機会を作っている。市が主催する研修にも参加し、学んだことを報告し合うことで共通理解を図っている。		
Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	保29	a ・ ㉗ ・ c
<コメント> 保護者には、入園時に個人情報の取扱いについて、園の姿勢を知らせ、確認のサインを得ている。年に1度、再確認を行っている。排泄・着替え・水遊び後のシャワーなど、男女でパーテーションを使って分けている。プライベートゾーンについては、講師が子どもへ分かりやすく話をする機会を作った。しかし、プライバシー保護に関する規程は確認できなかった。		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	保30	㉖ ・ b ・ c
<コメント> ホームページが開設されており、パンフレット確認ページもある。入園の問い合わせや園見学の申込みもインターネットで出来、保護者が気軽に問い合わせができる。パンフレットは、市役所の入園パンフレット一覧のコーナーにも設置しており、積極的に尚且つ分かりやすく広報を行っている。		
Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	保31	㉖ ・ b ・ c
<コメント> 入園前に入園説明会を行い、「入園のしおり」や「重要事項説明書」を使って、丁寧に説明を行っている。入園希望の子どもの保護者には、園内見学の後、園の決まりや保育内容が掲示してある資料を見せながら説明を行っている。日本語の不得意な国外にルーツをもつ保護者には、翻訳アプリや翻訳機を使って理解するまで説明をしている。		
Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	保32	㉖ ・ b ・ c
<コメント> 保育所変更の場合の引継ぎや申しりは、市が定めた方法で行われている。また、保護者には入園時に「同意書」を提出してもらい、必要な情報を他園へ引き継ぐ許可を得ている。法人の作成したマニュアルはあるが、今は公立園から民間園への移行期のため、法人のマニュアルは使用せずに市の方法に合わせている。		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	保33	a ・ ㉗ ・ c
<コメント> 行事ごとにアンケートを実施し、改善が必要なものに関しては会議で話し合いを行っている。必要に応じて相談や懇談ができる体制は整えられているが、個別懇談会は行っておらず、保護者からは個別懇談や相談の機会が欲しいという意見がある。年長児に限って、年に1回、保護者懇談会を行い、就学を見据えた話や卒園までに獲得してほしい子どもの姿を知らせている。		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	保34	㉖ ・ b ・ c
<コメント> 苦情解決の仕組みは整備され、書面で保護者へ知らせている。日々の保護者とのコミュニケーションの中で、相談や苦情があれば記録を残し、全体に伝えている。「苦情処理簿」には、改善への経過などが丁寧に記録されている。日々のクレームがあれば「クレーム受理票」に記入し、対応を検討している。		

Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	保35	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 保護者からの相談は主に担任が受けることが多いが、担任で対応できない場合には、主任や園長が対応して相談にあたっている。相談窓口は書面で知せ、園の入り口にも掲示して、いつでも確認ができるようになっている。相談内容によっては個室で行い、プライバシーにも配慮している。</p>		
Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	保36	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 苦情・意見・相談に関しては、個別で話を聞く時間を設け、必要であれば主任・園長も参加して話し合う場も設けている。クレームの対応マニュアルは整備されている。「クレーム処理簿」は丁寧に記録され、以後の対策に至るまでの記録が残されている。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な保育の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	保37	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 「ヒヤリハット報告」は起きた時に記入し、毎朝全員が確認している。確認した職員はサインをし、全員が見たことを確認する仕組みが整えられている。事故などの報告は「アクシデント報告」としてレベル分類し、法人内で共有している。その中でもレベルの高いものは、全園に通知されている。それによって、他園での事故の情報を得ることができ、自園での事故予防に努めている。</p>		
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	保38	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 「感染症対応マニュアル」は整備されている。毎日の衛生に関するマニュアルがあり、発生時に感染を広げないため、保護者には各クラスボードで感染症の発生について知らせ、園からのお知らせとして、連絡帳アプリで配信も行っている。感染症予防策として、保護者へ季節的に流行しやすい感染症や、流行った時の対応などの情報を知らせている。</p>		
Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	保39	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 消防計画は整備され、災害時の計画作成、避難訓練の実施など、子どもの安全確保に心を尽くしている。備蓄食料もアレルギー対応のものを用意している。消火器のチェックは避難訓練時に行い、全職員が非常時にすぐに使えるようにしている。2階建ての大きな建物であるが、非常階段で子どもが避難できるように2箇所の避難経路が作られている。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	保40	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 「入園のしおり」に、1日の流れが載っている。デイリー計画もあり、計画と記録が連動している。年度初めに立案し、年度終わりに振り返りをしている。その上で、新年度会議で流れを決めている。マニュアルは整備されており、職員はいつでも見られるようになっている。指導計画、週案、日案すべてに、反省・考察を記入する欄があり、振り返りが丁寧にされている。</p>		
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	保41	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> マニュアルについては、市のマニュアルと法人作成のマニュアルがある。現在は移行期として、必要なものを選び、市のマニュアルから法人のものへと変更をしていく時期にあっている。今後も、園を運営しながら法人のマニュアルへとシフトしていく予定である。計画の見直しは、年間計画を作成するときや、月案、週案を作成するとき、主任が指導して見直しを行い、次の計画につなげている。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	保42	㉗ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>「保育の全体的な計画」に基づき、保育計画が作成されている。3歳未満児の個別指導計画、障害のある子どもの個別指導計画も作成している。指導計画の作成者は担任であり、毎月末に評価・見直しを行い、月案会議で前月の計画の見直しをし、次の計画を作成している。適宜、主任が指導を行い、園の方針に合わせて修正をしている。</p>		
Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	保43	㉗ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>指導計画の実施状況の評価は、定期的に行って実施されている。しかし、延長保育時間に保育に入る職員も多く、全員での話し合いの時間が取れないことが課題となっている。保育園の性質上、全員での集合は子どもがいる限り難しい。全員が集合できないことを補うよう、月案会、リーダー会など細かく分かれた会があり、その都度職員が集まってテーマに沿った話し合いを行っている。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	保44	a ・ ㉗ ・ c
<p><コメント></p> <p>保育の記録は丁寧に記述され、会議で共有されている。確認のサインで、全員が見たことをチェックする仕組みとなっている。サインの確認を主任が行い、見ていない人に声を掛けている。現在の、残業が当たり前になっている勤務状況を考えると、全職員に迅速に周知できるような仕組みを整備構築すれば、時間外労働の短縮にもつながる。合理的な事務時間の確保や、効率的な記録作成を期待したい。</p>		
Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	保45	㉗ ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>文書を管理するための規程を整備し、個人情報の保護に関する記載がある。個人情報保護については、職員には年に1回研修が行われている。また、書類の管理などは、規定された通りに行われており、記録の開示請求についても対応した事例がある。文書の管理規程に沿って、保管・保存・廃棄が行われている。</p>		

【内容評価基準】

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育の全体的な計画の作成		
A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育の全体的な計画を作成している。	保46	a ・ ⑥ ・ c
<p><コメント></p> <p>「保育の全体的な計画」は、園長、主任が作成したものを職員が確認する形で作成されている。全員が園の情報を知り、1年の計画を立てる基準となるものであるため、今後は全員での計画作成が望まれる。新型コロナウイルス感染症の流行後、地域との関わりが減っている。地域とのつながりを深め、子どもたちの経験がより豊かになることを期待する。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	保47	① ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>保育室は広く、遊び環境コーナーと給食を食べる場所とを分けることが可能である。3歳児以上は、自由に遊びが選べる環境を作っている。3歳未満児の保育室には空気清浄機を設置し、空調を調節しながら、外気の入替えも行っている。子どもの遊びの興味や関心が引き出せるよう、環境を整えている。</p>		
A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	保48	a ・ ⑥ ・ c
<p><コメント></p> <p>子どもの情報は職員会議やリーダー会で話し合い、適切な対応ができるようにしている。しかし、全職員による話し合いは、現在の職員不足の中では、実現の可能性は低い。長時間の保育時間の中で、職員が変わっていくが、誰がシフトに入っても対応できるよう心掛けている。早期の職員の増員は見込めず、現在の人員で十分な対応ができるよう工夫が必要であると、現場の職員は感じている。</p>		
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	保49	① ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>子どもが基本的な生活習慣を身につけるために、子どもがやろうとする気持ちを大切に、さりげなく手助けできるよう心掛けている。保護者の理解を得て、家庭とも連携して取り組んでいる。強制なく、子どもが自主的にできるように配慮し、「人権チェックリスト」で定期的に確認しながら、適切な関わりを心掛けている。</p>		
A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	保50	① ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>各年齢に合った環境構成を行っている。3歳以上児のクラスには、自主性を大切に、好きな遊びが選べるような環境を整えている。1日の中で主活動の時間に英語の時間などがあり、様々な経験ができ、戸外での活動時間も十分にとっている。広い園庭があるが、年齢なりの遊びが展開しやすいように、低年齢児用のスペースが分けられている。</p>		
A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保51	① ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>0歳児と、月齢の低い1歳児が同じ保育室で過ごしているため、活動に応じてパーテーションで分けたり、サンルームを利用したりして、年齢に応じた対応を心掛けている。連絡帳により、保護者との連絡を密に行い、子どもの情報を共有している。離乳食の相談にも対応し、保護者と話し合いながら丁寧に行っている。</p>		
A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保52	① ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>広い園庭を3歳児以上と以下に分け、お互いの遊びを見ながらも、遊びを干渉しあわず、安心して好きな遊びが見つけられるようフェンスで仕切っている。活動が活発になる2歳児も簡単な集団遊びや、追いかけっこが十分にできる広さが保障されている。毎日の受入れ時には「視診表」でチェックを行い、運営保育士も情報が見て分かるようになっている。</p>		

A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保53	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 3歳児以上は、室内のコーナー設定を行い、好きな遊びを選べる環境を工夫している。保育室以外にも、広い廊下や空きスペースがあり、行事の準備物や廃材が用意されている。障害のある子どもの個別支援記録も整備され、個々の障害特性により、必要な支援を受けている。</p>		
A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保54	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 障害のある子ども、また、発達に凸凹があると思われる子どもの個別指導計画を立て、加配保育士と担任によって計画立てて支援している。保護者との話し合いは、担任、主任と保護者とで行っているが、子どもや保護者のプライバシーにも配慮し、個室で話ができるようにしている。可能な限り日々の様子を伝え、子どものできることをこまめに伝えていくことを心掛けている。</p>		
A-1-(2)-⑨ それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保55	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 7時から20時までの長時間保育を行っている。1日のうちに、様々な職員が対応するため、子どもが安心して過ごせるよう、スキンシップを取りながら保育にあたっている。夕方からの時間は部屋移動などがあり「落ち着いて過ごすことが難しい」という意見があった。保育室の環境や、長時間保育の子どもへの安心を探る手立てを工夫されたい。</p>		
A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	保56	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 市の幼保小の会議が行われ、小学校とのアプローチカリキュラムを作るという取組みが、園長を主として行われている。配慮の必要な子どもに対して、市で行われている「すくすく」という冊子により、小学校、中学校への送りができる仕組みがある。ただ、小学校との実際の関わりは少ないため、今後は、就学がイメージできるような活動を計画されたい。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	保57	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 「健康管理マニュアル」、年間保健計画があり、クラスごとに年間の計画を作成している。健康の記録も個別に行われており、その内容を保護者へ知らせている。ケガがあった場合の「処置ノート」が用意され、小さな事故でも全職員に周知する目的で始まった。しかし、忙しいために記録されていないという現状である。行うべきことの整理が必要な時期に来ている。</p>		
A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	保58	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 健康診断の結果を共有し、保育の中で配慮している。アトピーで肌の荒れやすい子どもの口の拭き方や、扁桃炎の子どもへの飲み込みに注意するなど、日常の丁寧な見守りを心掛けている。園医も協力的で、日常の健康について困ったことの相談ができたり、ケガをしたときにすぐに受診ができる。</p>		
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	保59	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 食物アレルギーの子どもへは、毎月の献立を保護者と確認し、除去食を行っている。半年に1度の面談を行い、アレルギーの度合いを確認している。除去食は給食室のファイルを見て情報を確認し、提供までに3名で確認している。アレルギー事故があった場合に備え、誰でも対応できるように、エピペンの講習も定期的に受講している。</p>		
A-1-(4) 食育、食の安全		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	保60	① ・ ② ・ ③
<p><コメント> 食育計画が学年ごとに計画され、野菜の栽培やクッキング保育など、多様な食育活動が行われている。行事食や郷土料理など、様々な趣向で子どもが楽しく食べられるような工夫がある。さらに、保護者の試食会も行われている。保護者とは、離乳食の相談から、人気レシピのお知らせなど、多種多様な食育活動を行っている。</p>		
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	保61	① ・ ② ・ ③

<コメント>

献立は、法人の管理栄養士が作成している。幅広く様々な場所で事業展開している法人であるため、他県の郷土料理や、かわいく飾った行事食などで、子どもたちの目も舌も楽しませている。残食記録をつけ、子どもの嗜好調査をして、献立作成に活かしている。また、栄養士が子どもに栄養の話をする機会を設け、健康や栄養について学ぶ機会を作っている。

A-2 子育て支援

		第三者評価結果	
A-2-(1) 家庭と綿密な連携			
A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	保62	① ・ b ・ c
<コメント> 日々の様子を具体的に知らせることで、保護者の安心につなげている。記録物は全職員が確認をして、サインをする仕組みがある。全員が情報を知ることができるよう、様々な記録簿にサインがあり、主任等の確認がある。個別懇談会は行っていないが、希望があれば随時行うという方針である。就学前はクラス懇談会を行い、就学へ向けての情報を知らせている。			
A-2-(2) 保護者の支援			
A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	保63	a ・ ② ・ c
<コメント> 保護者に優しい園である。持ち物の簡便さ、長時間保育、祝日保育、一時保育や子育て支援等で子育てを支援している。保護者からの相談は随時受け付けをし、「相談記録」にまとめている。可能であれば、自ら発言しない保護者のために個別の懇談会などを行い、じっくり話を聞く機会をつくることで、意見を言えない保護者の声も拾うことが望ましい。			
A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	保64	a ・ ③ ・ c
<コメント> 「虐待対応マニュアル」は整備され、職員へは研修が行われている。早期発見・早期対応のためのマニュアルに従って対応が決められている。マニュアルの読合わせは毎年4月に行っている。市より情報が来た場合は、見守り対象児として、様子を随時伝えている。しかし、職員は具体的な研修の機会が少ないと感じている。			

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)			
A-3-(1)-①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	保65	④ ・ b ・ c
<コメント> 市の定めて評価表で、年に1回自己評価を行っている。法人の評価表でも、年に2回の自己評価を行っている。評価後には、園長と個別の懇談を実施している。そのときに保育実践の振り返りと、次の目標を決めている。個人の目標は、園の目標を踏まえて設定されている。			